Project No.
35 | 福祉

愛媛県内のこども食堂をデジタルでつなげる 情報共有で持続可能なこども食堂運営を支える

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 サイボウズ株式会社

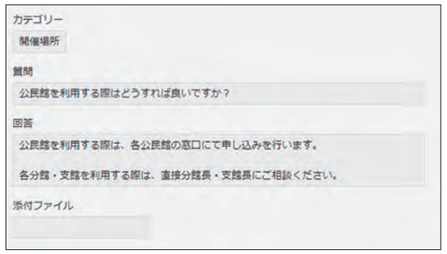
コンソーシアム構成員 サイボウズ株式会社｜特定非営利活動法人 U.grandma Japan

勉強会の実施概要

勉強会の目的	本プロジェクトでの取り組みを愛媛県内のこども食堂事業者に広く周知するとともに、その利用方法や利便性を伝え、活用の輪を広げる、ならびにこども食堂運営者の視点から、システムの懸念点などついても意見を集め、改善に活かすことを目的とする
勉強会の当初のゴール想定と結果	勉強会のゴール想定として、1.システムの利便性、効果を伝え利用希望者が増えること、2.システムの課題について現場視点で多角度的に意見を集め改善に活かすこと、を設定。結果個別に説明依頼やご相談があり、勉強会後に訪問させていただくケースもあった。また改善点・懸念点として情報共有する上でのアクセス権についてご意見をいただき、今後のシステムへの反映を行う予定となっている。なお、本勉強会を通じ、参加者の方は共通して「情報共有」「連携」の必要性を感じており、本システムに期待されていることも再認識する機会となった。
参加者	愛媛県内のこども食堂事業者様や支援者様をはじめ、NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ様、九州沖縄、香川、徳島、高知などからも参加いただき、約50名での開催となった。
協議アジェンダ	●こども食堂事業者への課題ヒアリングの共有 ●課題解決に向けたデジタルプラットフォーム構築についてご説明 ●構築した5つのアプリケーションについて機能ごとにご説明 ●導入効果について共有 ●利用申し込み方法についてご案内 ●個別相談会、ヒアリング
協議による実装推進上の重要な決定事項/示唆	こども食堂事業者同士での強固な「情報共有」基盤を確立することが最優先課題である。そのために、マニュアルの作成やシステム支援員の育成など運用サポート体制を構築する。また、次年度以降、フードバンクでの提供食材・物資管理についてデジタル活用を目指す。
その他補足事項など（開催頻度、規模など）	本年度はシステム構築に注力し本勉強会1回の開催となった。次年度以降は東予、中予、南予でそれぞれ勉強会や相談会を企画し月1回を目標に実施しつつ、運用マニュアルの作成やシステム支援員などの育成も行い、よりスムーズかつ、広域に展開できるよう運営体制を整えたい。

デジタル実装協議フォーマット

目指す「実装成果」の定義	こども食堂間の情報共有の場としてデジタルを用いたプラットフォームを構築し、従来の単独運営から、より地域で連携した持続可能な運営を目指す。さらに、地域の交流拠点としての価値を高め、地域住民の豊かな生活に資する事を目的とする。
データに基づく協議ポイントの整理	従来単独運営であったこども食堂を本プロジェクトで構築したデジタルプラットフォームを用い、各こども食堂間での情報共有(開催情報、ボランティア情報、食材情報、レシピ、ノウハウ、利用者など)を促進、連携した運営体制を実現する。また、デジタル化により、受付工数の削減や食材のスムーズな分配を実現するなど運営者の負担を軽減する。さらに、単なるこども食堂ではなく、防災やこどもの見守り事業など地域の拠点として確立する。
主なデータ項目	システム利用施設数(利用こども食堂事業者数)、オリジナルレシピ登録数、FAQ登録数、ノウハウ共有数、プラットフォームへのアクセス数ならびにコメント数などを元にKPIを設定し、プラットフォームの活用具合を測定、情報共有と連携の促進を図る。
ガイドライン（含む具体例）	目指す実装成果であるこども食堂の情報共有、ならびに連携を実現するには、システム利用加入を促進し、データを蓄積することが不可欠となる。具体的には、愛媛県内で稼働するこども食堂93施設中(2023年3月時点)、75件を目標にシステムに利用登録・アクセスを行い、レシピやFAQのデータ登録数が50個以上、かつ日常的に掲示板などを用いたコミュニケーションが行われる状態になる必要があると考えている。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	受付システム(利用者情報収集)に注力していたが、それ以前に食材・物資、ノウハウ、レシピなど、こども食堂事業者同士での強固な「情報共有」基盤の確立が必要。情報共有を活発化させるために、マニュアルの作成ならびにシステム支援員の育成など運用サポート体制の構築が必要。



Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.